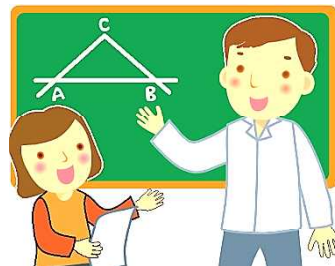


子どもたちの実態を明らかにして課題を克服する学力保障の取り組み

学校現場の現実には、ますます多忙化する中、今年は京都の高校入試が変えられ、受験生は振り回され、学校現場で混乱も起きました。日本の教育は競争ばかりが押し進められ、子どもに寄り添って力を伸ばす時間が十分に保障されていません。それだけになおさら、実践的にも理論的にも互いに学びあい、教師としての力量を高めることが重要です。

そのために、改めて、小学校から高校までを見渡して子どもたちの実態や課題を把握し、課題を解決・克服する実践を探ろうと、本研究部会では、下記のとおり6月の研究会を公開で開催します。



京都教育センター学力・教育課程部会 公開研究会

テーマ

「子どもたちの実態を明らかにして課題を克服する学力保障の取り組み」

■日時：2014年6月15日（日）1:30～4:30

■場所：京都教育文化センター 302号室

（京都市左京区聖護院川原町：京阪電車「神宮丸太町駅」、東へ徒歩3分）

■内容

基調報告・提起 「教師が子どもの実態をもとに力量を高めていける職場とは」
鋒山 泰弘 先生（本研究部会代表・追手門学院大学）

実践報告

- ①小学校：「豊かに育つことと学力保障のつながりを改めて考える」
得丸 浩一先生
- ②中学校：「公立選抜制度改変に伴って起きている問題」
宮本 政和 先生
- ③高等学校：「新入生の実態と高校の課題について」
島貫 学 先生

* 鋒山先生から—今の学校現場を、「教師が育ち、力量を高めていける場になっているか」という観点で見たとき、どのような課題をかかえているのだろうか。教員評価や子どもの評価の問題を中心に考えたい。

* 得丸先生には、組合専従から4年ぶりに戻った小学校の子どもたちの様子からお話いただきます。

* 宮本先生から—京都の公立選抜制度が大きく変わり、中学校現場の生徒・保護者・教職員にとっても大きな影響がありました。生徒の精神的負担も大きかったと思います。生徒の学力を保障し、希望を実現する進路保障はどうあるべきか、一緒に考えられたらと思います。

* 島貫先生から—およそ10年前、「ゆとり」と「新学力観」の下で9年間を過ごした生徒たちを高校に迎えた時、私たちは大きな「変化」を実感した。今日に繋がるその変化の内容を確認しながら、義務教育とのスムーズな接合について必要な対応策の在り方を考えたい。

主催：京都教育センター学力・教育課程研究部会

京都教育センター 学力・教育課程部会 電話 075-752-1081

事務局担当：市川章人 電話 090-5655-0159